

# はたらく女性のフロア通信

発行日 2017年12月25日

NO. 33



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP <http://wwfk.jimdo.com/>

## 神奈川自治体学校女性分科会

### 「女性への暴力の施策と課題」をテーマに実施

11月13日、第45回神奈川自治体学校がかながわ労働プラザで開催され、女性分科会は「女性への暴力の施策と課題」をテーマに実施しました。県議、県・横浜市職員、県民ら25人が参加。

最初に栗原ちゆき（元神奈川県婦人相談所指導課長）さんから「女性への暴力（DVをはじめとする）や女性保護事業の実情」のお話がありました。栗原さんは日本の女性保護事業は、暴力被害等の現象にしか目を向けていない（DV被害、ホームレス、刑務所からの出所者等）。現行法では暴力被害女性に対する支援に限界がある。女性が暴力を受け、居場所をなくすに至った課題をとらえ、支援する仕組みと体制づくりと支援のための人的充実が必要。女性の尊厳を守り、その人らしく生きていく、生き直すための支援を保障する新しい法律の制定が必要であると強調されました。

つぎに、田口道子（ポルノ被害と性暴力を考える会＝PAPS）さんから「現代における性の商品化を考える」のお話がありました。ポルノの問題にとりくむ研究者や市民と共に2008年、PAPSを立ち上げた。「撮影会モデル」と面接に行ったらアダルトビデオ会社のAVの仕事、断る自由を奪われたなどの相談が多い。相談は年々倍加し、2017年（10月迄）は150件にも。なぜ女性たちは訴えられなかったか。出演したくないと言うと、違約金それも高額の違約金を支払わねばならないと思いこまされる。アダルトビデオ業界とわたりあう支援者がいなかった。親族、友人には知られたくないため孤立化、洗脳された状態になり、作品に出るか、死ぬしかない。10数年前の映像を削除したいと相談があったが、一度ネットに流された情報は回収できない。被害の痕跡は生涯にわたって社会的に残るなどインターネットのテクノロジーに救済が追いつかないと、深刻な現状が話されました。

意見交換では、婦人保護施設では、「緊急避難の人」と「自立支援が必要な人」とが同居しており、危険防止上、携帯も預かることから利用が限



定される。「保護」には福祉事務所の判断も時間がかかる。女性相談員は制度上非常勤規定がはずされたにもかかわらず、ほとんど非常勤で、常勤でも他業種の免許職種の場合もあり、常勤で専門的な位置付けがほしい。非常勤は時間外の問題、労働条件やサポート体制の問題、雇止め問題などがあり、経験の積み重ねができない。国は人材育成もしないで、団体任せ。横浜市の区で複数体制を要求し、ようやく1人はアルバイトで対応されたなど、問題が浮き彫りに。

被害の多様化や被害者への緊急対応など、売春禁止法やDV法では対応できない。自立支援の体制や法整備が緊急課題となっていること。民間任せにしないで、国や自治体の婦人保護行政の充実などが共通認識になりました。

また、過去の生活歴により被害を受けやすく、泣き寝入りしやすい状況があることから、学校教育との連携や行政の横断的な連携の必要性も出されました。（報告：小島八重子）

2018年

国際女性デー神奈川県集会

とき：3月8日（木）18:20～  
ところ：かながわ県民C2Fホール

★オープニング

フルーツ&ハーブの演奏

★記念講演：「平和の力を取り戻すために～何故、菅官房長官の会見に臨むのか」

講師：望月衣塑子さん

（東京新聞社会部記者）

★参加費：500円

公園のトランペット 秋の暮  
掌の棘 抜けぬまま冬に入る  
佐知子

## 天野寛子フリー刺繍画展等の 長岡市での開催

鈴木 敏子(会員)

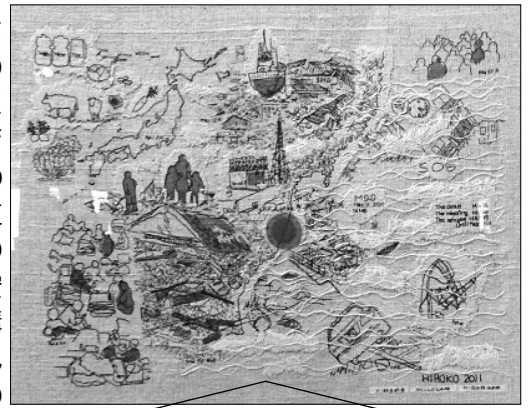
「フリー刺繍画」を知っていますか。布きれと糸と針で描かれた「絵」です。

2015年春に銀座の画廊であった「東日本大震災から4年」をテーマにした昭和女子大学名誉教授の天野寛子さんのフリー刺繍画展に衝撃を受け、新潟県中越大震災(2004年10月)を経験し、隣接市に原発がある郷里・長岡の人たちにこそ見てもらいたい思いにかられました。女性11人で「長岡『心の復興をつなぐ』実行委員会」を立ち上げ、熊本地震が起きた2016年の晩秋の1週間、「天野寛子フリー刺繍画展&ししゅう高田松原タペストリー展 中越から東日本そして熊本へ～心の復興をつなぐ～」を開催しました。

1945年8月1日の長岡空襲で焼け残った呉服卸業が建てた築百年の櫓蔵の1階ギャラリーに、天野さんのフリー刺繍画22点が展示されました。東日本大震災シリーズ、そして8月の長岡大花火大会を観て描かれた慰霊の花火「白菊」には、多くの人が涙して見入っていました。

長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」には、2015年12月末の募集まで全国や海外からも届いた松のフリー刺繍画734作品がタペストリーにして展示され、津波に攫われた高田松原の7万本の松林を髣髴とさせました。天野さんのフリー刺繍画も10点ほど展示されました。陸前高田市のモビリア仮設住宅を支援するNPOのスタッフだった中西朝子さ

んと天野さんが出会われたことによる産物です。そのNPOの設立には長岡の中越防災安全推進機構が尽力されたというのですから、不思議な繋がりを感じます。中西さんらは「みんなのたからもの



天野さんのフリー刺繍画で、東日本大震災が起きて間もなくの2011年の作品。大地震、大津波によるいろんな情景が散りばめられています。中央の赤い丸(モノクロでは黒い丸)のところは福島原発。

実行委員会」を結成し、仮設住宅の方々に20cm四方の布に糸と針で松を描いて展示することを呼びかけたことが広がったのです。すでに大阪、神戸、高知、横浜、盛岡、仙台、京都等々、全国各地で展示されてきました。

長岡展では、陸前高田のモビハハの会の数人もお招きしてトークサロンも持ちました。岩手、宮城、熊本、京都、三重、神奈川、埼玉、東京と、全国各地からも足を運んでいただけました。さらに、去る10月中旬には陸前高田でお里帰りしたタペストリー展があり、長岡の数人も行って再会してきました。

いつどこで大震災が起きるかわからない日本列島です。復興のあり方の一面を提起できたように思います。

## 高麗博物館の「朝鮮料理店・産業 「慰安所」と朝鮮の女性たち～埋も れた記憶に光を～」展について

渡辺泰子(高麗博物館ボランティア)

8月末から始まった企画展も12月28日で終わろうとしている。「軍『慰安所』じゃなくて、産業『慰安所』？」と大方の入館者は、首をかしげながら熱心に見てくれる。

この企画展の準備に約3年も費やし、文献調査や学習会開催などと、北海道から長崎県まで7カ所のフィールドワーク調査を実施した。この調査を基本に展示準備をしたことが、好評の原因かなと自画自賛をしている。私は北海道を担当。

1900年代初めから、日本に朝鮮女性たちも男性と同様に大勢来日し、一番多かったのは日本にいる夫や家族を追ってきた女性たち、次に多かったのは製糸・紡績女工たち、三番目は“酌婦”と言われる女性たちだった。“酌婦”たちは、朝鮮

料理店で性売買をして働いていた。1930年後半からは、戦時体制で多くの朝鮮人労働者(男性)が炭鉱・鉱山などに強制動員されると、会社側は労働者の逃走防止や、労働率向上のために、“酌婦”たちを連れてきて産業「慰安所」を作った。こうした産業「慰安所」は、会社の「労務担当」が関与していたことが、いくつかの資料によって明らかになっている。しかし、朝鮮の女性たちの証言が少なく、資料も限定されており、研究課題も山積している。

今回の企画展では、軍「慰安婦」だけでなく、産業界にもこうした事実があったことを取り上げた。軍「慰安婦」たちとの共通点もあり、日本で初めての展示でもあり、この問題解明の出発点になることを期待している。



渡辺さんの説明を聞き、見学。

## 君嶋ちか子がゆく⑩ …神奈川県議会報告



上がれば、こぼれんばかりに人が溢れます。転落も度々生じています。

この混雑の大きな要因は、川崎市主導の再開発促進です。国・県・市の財政も投じながら、容積率の緩和を続け、駅近くの空間に「土地」

を創り出し、大手開発会社に利益を保証、超高層マンション17棟・2万人の人口増を招いています。さらに6棟予定されています。

国民無視の安倍政権や、「超高層マンション建設もうやめて」という市民の声一切無視の川崎市長の対応が続く中で、市民の声を受け止めたJR東日本がやけに新鮮に映ったものでした。私は思わずフェイスブックやツイッターでこの成果を伝えたものです。

### 《日本社会の信頼取り戻す》

武蔵小杉駅をよくする会とともに国会議員・川崎市議・君嶋も、二度にわたる駅調査やJR申し入れ、署名などに取り組みました。

通勤のストレスを少しでも減らしたい、大きな事故が起きないうちに安全策をとるという思いは切実でした。

新しい年も、政治の革新とともに、誠実な人々や出来事に出会える1年、日本社会の信頼を取り戻せる年にしたいものです。

### 《示された良識》

ウソまみれの空疎な安倍政治が際立った2017年でしたが、うれしいニュースもありました。

首都圏アスベスト訴訟神奈川の勝利、伊方原発の運転差し止め決定などもそうですが、私が県議会でも取り上げた小田原市と南足柄市の合併問題も光っていました。市民の良識をくみ取り、合併はしないという南足柄市長の態度表明がなされたのです。

小さい記事ながら、岩手県議会の見識も目を引きました。岩手青年ユニオンと民青岩手県委員会が、異常な長時間労働の是正と最低賃金引上げ等を求め請願提出し、日本共産党などの賛成多数で採択されました。

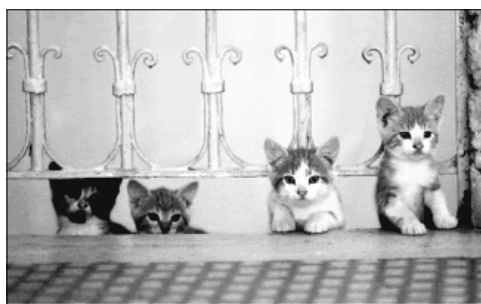
### 《武蔵小杉駅の改善が新鮮》

私の地元、武蔵小杉駅の改善も前進しました。横須賀線武蔵小杉駅改札口の増設、南武線ホームの拡幅などが来年実施されます。武蔵小杉駅は混雑率199%、改札を通るために、ラッシュ時50メートル以上の列をなす駅です。ホームにやっと

### 映画が好き

## 「猫が教えてくれたこと」

池田 資子(会員)



岩合光昭(写真家)さんは、猫の写真を撮る時は猫と同じ目の高さになると言います。

この映画は、

イスタンブールに住む猫たちのドキュメントです。街の様子が猫の目線で撮られています。屋根や塀の上、ドアの影、テーブルの下、路上、いたるところに猫の姿があり、彼らはペットではなく、また野良とも違う不思議な存在です。

イスタンブールは海洋交易の拠点として発展し、猫はオスマン帝国の頃に貨物船に乗ってやってきたとされています。世界中から色々な種類の猫が集まってきています。

登場するのは個性豊かな七匹とそれに関わる人たち。基本的に飼い主はいませんが、猫と人間がお互いにいい関係で暮らしているように感じま

す。簡単に主人公たちを紹介すると、①子猫のエサ確保に奮闘している「サリ」②工業地帯に住み、地域の男性たちに撫でられるのが好きな「ベンギユ」③レストランでネズミを追い払うことを使命としている小さなライオンこと「アスラン」④気性が激しく、嫉妬深いメス猫「サイコパス」⑤マーケットの人気もの「デニス」⑥可愛い顔に似合わず、食べ物を得るための手段を知り尽くしている「ガムシズ」⑦太った猫、お腹がすくと高級レストランの窓を叩く「デュマン」。



彼らに会いたいと思いませんか。私は「サイコパス」と「デュマン」が好きです。この猫たちの生活や性格を語っているのは周りに住む人たちです。街ゆく人が自然に猫の頭を撫ぜたり声をかけたりして暮らしているのが羨ましいと思います。長年エサやりを続けている人は、かつて猫に物心面で助けられたので、恩返しをしているのだそうです。助け助けられているのです。このいい関係が開発で奪われる危機にあることも伝えていきます。緑が失われつつあります。やがて東京のような街になるのでしょうか。

## 「慰安婦」問題と ジェンダー平等ゼミナール 佐久間由美子(会員)

2017年10月20日から24日まで、「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナールが企画した「中国 南京・上海 日本の加害の歴史に向かい合う旅」に参加しました。

今年は盧溝橋事件（1937年7月7日）・南京大虐殺（1937年12月13日）から80年の節目の年に当たります。中国では近年新しい博物館・資料館が増えており、新しい資料なども次々に発見されているといえます。また博物館等には若い人がボランティアで参加しているのが目立ちました。（南京大虐殺記念館は改修中）

### ★利済港慰安婦資料館（2015開設）

南京総統府から徒歩で7～8分の立地条件、ここにあった日本軍慰安所を改修して資料館としています。周囲は高層住宅が立ち並び、この建物も取り壊される可能性がありましたが資料館に生まれ変わりました。

日本軍慰安所のあった建物7棟が資料館として整備されています。2003年に北朝鮮の朴永心さんが、ここを訪問「私はここで『慰安婦』を強制された」と証言、ここから資料館の整備が始まりました。広場には嘆き悲しむ3人の「慰安婦」の彫刻（写真）が置かれ、背後の建物の壁面には泪が

いく筋も滴り落ちています。一目見てこれは「あの写真」がモチーフだと分かりました。また別の建物の壁一面に「慰安婦」の顔写真が掲げられていました。

永心さんは当時妊娠中でしたが、ここからやっと逃げ出し、中国軍と米軍の捕虜になります。その時米軍の従軍記者が撮影、この写真をモチーフにして彫刻が作られました。妊娠中だった永心さんの子どもはすでに死んでいたため、米軍の野戦病院で手術をし、永心さんは一命を取り留めたそうです。

資料館の展示は、日本軍「慰安所」の成り立ち・経緯などで「軍の関与」を明らかにするなどのほか、永心さんの使っていた19号室や、「慰安婦」たちの名札掛けなどを復元、日用品の展示など、当時をしのばせるようになっています。展示の最後には、女性の頭部の彫刻が掲げられ、その眼からは泪があふれています。見学者がその泪を拭きとるようになっていました。

（続く）



「慰安婦」の彫刻

## 県民連絡会女性分野の要求 対県交渉から

小島八重子(会員)

県民連絡会女性分野の要求対県交渉が11月15日開港記念会館で行われました。新婦人、神商連、農民連、労連女性センター、年金者組合など10団体37人が参加しました。1時間半という短い時間での交渉で、各分野ごとに県とのやりとりが行われました。

中でも気になったのが、所得税法56条の問題です。この問題は以前から女性差別の税制であることが国連にも指摘され、昨年、国連の女子差別撤廃委員会からの報告にも日本政府に「廃止すべき」との勧告が出されています。

県は、この問題に対し、「県として何をすべきか」との迷いがあるにしても、「県民の代表として選ばれている県議会議員を動かしてほしい」との回答です。この間、全商連婦人部の運動で、国

に廃止の意見書をだしている自治体は、480を超えています。

56条問題は、女性差別との認識は国民に広がりを見せているにもかかわらず、「県議会だのみ」という回答は、男女共同参画をすすめていく行政としては後ろ向きな回答です。

しかも、さらに、県議会陳情や請願制度の後退を行っている中で、県民の声を封殺すると思えません。

おりしも、県はかながわ男女共同参画プランの改定のパブコメ募集のさなかであり、さらに20184月に、県民局をなくし、未来福祉こども局（最初の案は「福祉こども局」だったところ、批判があり、未来を後付けした）に男女共同参画業務を持っていこうとしています。これ以上、女性行政の後退は許せません。



対県交渉のようす